

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772800076		
法人名	有限会社 豊		
事業所名	グループホーム 光風の家		
所在地	沖縄県豊見城市字高嶺299-1番地		
自己評価作成日	令和2年10月7日	評価結果市町村受理日	和3年 3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4772800076-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4772800076-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年	11月20日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者様の個々の想いに、寄り添うケアを心掛けています。近隣に出掛けた際には地域の方と挨拶を交わし日常的に交流を行っています。訪問診療、訪問歯科、訪問看護ステーションとの連携を図り、健康管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街の奥にあり、同敷地内に法人が経営するデイサービスや居宅介護支援事業所がある。地域との付き合いとして、地域包括支援センターが開催するオレンジカフェに利用者が職員とともに参加し、手作りの草履を出品して交流を図っている。近所の保育園児が散歩しながら事業所に立ち寄ることもあり、町内会の清掃に職員が参加している。デイサービスの利用者とは、誕生会や敬老会等を合同で開催するなど交流が図られている。訪問診療、訪問看護、訪問歯科サービスと連携を図り、健康管理を行っているが、入居前からのかかりつけ医を利用している方が6名いる。食事は3食とも事業所内で調理して提供され、利用者はテーブル拭きや片付け等を行うことで生活にメリハリをつけている。おやつ等は利用者の意見や要望を取り入れ、手作りのサーターアンダギーや焼きそば等を一緒に作っている。今年はコロナ禍で外出が思うようにできないが、事業所周りの散歩などを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と実践として、事務所や玄関などに掲示し毎朝利用者と同様と共に復唱している。毎月、日勤・夜勤者合同でのミーティング時に理念に沿った利用者様のケアが出来ているか情報交換をおこなっている。	理念は「①一人ひとりの声に耳を傾け、安心と尊厳のある暮らしの提供、②地域との交流を大切に潤いのある人生が送れるよう支援する」の2つの柱となっている。特に夜間は専属職員が配置され、月1回の合同ミーティングで理念に沿ったケアの共通理解を図るように努めている。理念は玄関とリビングに掲示し、運営推進会議録にも記載され、周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所と地域との付き合いとして散歩で近隣に出かけた際は地域の方と挨拶を交わし日常的に交流をしている。地域包括支援センターの呼びかけで認知症カフェ等に利用者様も一緒に参している。	地域との付き合いは地域包括支援センターが開催するオレンジカフェに利用者2~3人が職員とともに参加し、手作りの草履を出品し、交流を図っている。近所の保育園児が散歩しながら事業所に立ち寄ることがある。町内会の清掃に職員が参加している。同敷地内のデイサービスの利用者や誕生会やひな祭り会等を合同で実施して日常的に交流している。近所の方からの手作りマスクの寄付がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献として、地域包括支援センターの呼びかけで認知症カフェに出かけた際、地域の方々に支援の方法等アドバイスをお願いされることもあり地域貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かした取り組みとしてホームの現状報告やヒヤリハット・事故報告を行い意見交換しホームへの要望やアドバイス等をもらいサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年6回定期的に実施されている。今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策で書面による開催が続いている。委員の構成は利用者、家族、行政、知見者となっているが、地域代表の参加がない。議事内容は、利用者の入退去状況や介護度、活動内容、事故及びヒヤリハット報告、外部評価報告等で透明性が確保されている。案内や会議録は委員に郵送しているが、運営推進会議録の事業所内での公表はされていない。	運営推進会議に地域代表が参加しやすい工夫と議事録の公表が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携として、困難事例などがあれば各担当者からアドバイスをもらうようにしている。	行政は運営推進会議に毎回参加し、情報交換が行われている。利用者の介護認定更新時の家族への連絡をしたり、生活保護の申請に向く時もある。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に情報交換をしたり、入居相談や認知症カフェ等への参加等協力体制がある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践として、身体拘束等をしない方針をホームに掲げ定期的にミーティング時に身体拘束のないケアを情報共有し勉強会を行っている。	身体拘束をしないケアの実践については、身体拘束等の適正化のための指針が作成され、マニュアルが整備されている。身体拘束運営適正化検討委員会を3か月に1回、定期的に運営推進会議終了後に開催している。検討委員会会議録は回覧され、職員全員の押印がある。研修は3月と8月に2回実施し、研修報告書が提出されている。玄関は施錠せず自由に出入りできる。身体拘束者はいない。事務所に敷地内を映す防犯カメラが設置されている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底として、マニュアルやミーティング等により学ぶ機会を持つようにしている。職員間でも相互に見過ごしが無い様に注意をはらいあっている。	虐待防止の徹底については、虐待防止マニュアルが整備されている。不適切なケアがないか等については、毎月のミーティングの中で職員同士で確認をしている。虐待に関する研修が実施され、研修報告書が提出されている。特に「ちょっと待ってね」等の不適切な言葉使いについて周知を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	R2/10月現在後見人がついている方は1人。権利擁護等制度の理解と活用としては県やグループホーム協会の研修などで学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明と納得については契約に関する説明の時間を十分に取っており疑問点等は都度説明し納得してもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者家族等意見の反映として利用者様とはコミュニケーションを密ににとり家族様とは面会時には思いや意見を収集するよう心掛けています。	利用者や家族等の意見の反映について、利用者からは日頃の会話の中から要望等を聞いている。意思表示ができる利用者が数人おり、三線が引きたい、カラオケをしたい等の要望を運営に反映している。コロナ過の中で、利用者の様子が知りたいとの家族の要望を受け、メールやラインで写真を送付している。意見箱の設置がない。苦情・要望が2件あり対応しているが、対応結果の公表がない。	意見箱の設置の検討と苦情・要望等に対する対応経過を含めた結果の事業所内への公表が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見の反映としては定期的におこなうミーティングにより意見交換をおこない運営に反映できるよう努めている。	運営に関する職員の意見の反映については、日勤職員と夜間専属職員合同ミーティングを夕方開催し、要望等を聞いている。数名の職員の退職に伴い、職員負担が課題となり、職員の意見で利用者を5人に制限して対応していた期間が5か月程度あったが、現在は職員の確保もでき、利用者も9人となっている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備としては顧問の社会労務管理士労働基準法などは管理してもらっている。休日や年休は事前に希望表を作成し希望通りに習得できるように調整している。	就業環境の整備については、法人として就業規則が整備されている。健康診断が年1回実施され、夜間対応職員3名は年2回実施されている。働き方改革による年5日の有給取得については、取得調整中が2人おり、年度末までに取得を促していくとしている。コロナ過における介護従事者に対する慰労金申請は申請済みとなっている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みとしては現場の状況をみて法人内、外の研修にも参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を通じた工場として外部での研修やグループホーム協会を通じて定期的に管理者会議が行われている。他の同業者との交流を図りサービスの質の向上を目指している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に築く本人との信頼関係についてはすぐにサービスを開始するのではなく、事前調査したり本人の生活の場に敵しているか体験入所などを実施し安心してもらえるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に築く家族などとの信頼関係については家族様の要望等に関しては入居前の段階から十分に聞き取りを行えるよう、場所時間の確保をすることで納得して利用して頂けるよう努めている、		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めと支援としては、各居宅や役所、包括とも相談。グループホームの入所が必要ならば協力し対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に過ごし支えあう関係については日常の何気ない会話の中にも教えていただくという場面を作り、方言を質問したり、三線を一緒に弾きコミュニケーションを取っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を共に支えあう家族との関係については、外出、外泊など家族様のできる範囲でお願いし、実現に向けて職員が支援している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係継続の支援については家庭行事へ参加しやすいよう、時間を調整して準備をしたり、送迎のお手伝いをしたりして家族様や親戚、馴染みの場所などへの関係が途切れないよう努めている。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、病院受診の際に馴染みの美容室に出かけ、友人から実家に届いた年賀はがきを本人に手渡すなど、つながりを継続できる支援をしている。飲み友達や三線仲間、一緒に婦人会活動をしていた友人等が面会に来て交流を深めることもあったが、現在はコロナ感染症対策のため、面会制限をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係の支援としては利用者様同士が寛げ、ゆったりとできる共有スペースを設け談話など楽しまれている。孤立しないよう、職員間で情報を共有し支えあえる支援を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らない取組みとして、長期入院となり契約が終了してもご本人様への面会やその後の相談を受けたり関係が途絶えることなく継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握としては出来るだけ本人の意向や希望に添えるよう日々の生活の場面で何気ないシグナルを見落とさないよう努めている。	思いや意向の把握については、日常の会話の中から把握に努めている。利用者の数名は意思表示ができるため、直接、要望を確認して対応している。掃除が好きな男性利用者は毎日、フロアのモップがけや庭の植物への水かけを一緒に行いながら、思いを聞くようにしている。化粧する習慣がある利用者には、風呂上りに化粧をするなど思いや意向の把握に努めて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握としては、家族様の協力と理解を得ながら、生活歴などを把握している。プライバシーに触れる際には、個人情報の取り扱いに気をつけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状の把握としては、日々の介護記録により各人の1日の過ごし方や心身状態を把握できるようにしている。プライバシーに触れる際には、個人情報の取り扱いに気をつけるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、モニタリングや担当者会議は定期的に行い利用者様、家族、職員間で情報を共有するようにしている。	チームで作る介護計画とモニタリングについて、計画作成担当者が職員と話し合いながら利用者や家族等の要望を把握し、介護計画に反映している。概ね3か月に1回モニタリングが実施されている。認定更新時や状態に変化があった場合に介護計画の見直しがされている。長期目標は概ね1年、短期目標は6か月となっている。短期目標期間とサービス内容の期間が一致しない事例が見うけられた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と実践への反映としては、日々の記録の中でも日勤・夜勤その他病院受診など記録し申し送りノートを共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりを支えるための事業所の多機能としては、家族様の対応が困難な事に関しては積極的に協力するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働としては、地域のスーパーへ一緒に買い物へ出掛けたり隣接するデイサービスとの交流、認知症カフェへの参加など、地域の方との触れ合いを大切にしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との受診支援としては、かかりつけ病院はご本人様と家族様の希望を優先し、家族様の同行が困難な時には職員が病院に付き添い家族様に受診前後の連絡、経過は毎回電話にて報告を行っている。	訪問診療の利用者が3名、他6名の方は今までのかかりつけ医を継続して受診している。基本的に、受診は家族が対応し、直近1週間のバイタルを記載したメモを渡し、ご家族からかかりつけ医に伝えている。また、必要に応じて管理者がかかりつけ医に連絡を行い、状態を報告している。受診結果は家族から聞き取り、申し送りに記載し、情報共有している。利用者の年1回の健康診断が確認できなかった。	利用者が年1回の特定健診等を受けられることができるよう取り組みが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働については、ささいな情報でも協力医療機関の看護師を通じ、医師へ報告し相談できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との協働については治療内容の把握、計画に基づき入院前の生活に戻れるよう支援している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけた方針の共有と支援については、事業所の現状を把握した上で関係者を含めて統一した方針を契約書に記載し、入所契約時に確認してもらっている。	訪問看護ステーションとの契約による医療連携体制を築いており、重度化や看取りに関する指針の整備を行い、契約時に家族に説明し、同意を得ている。ここ1年間看取りケアは行っていない。寝たきりの利用者の家族には、最期をどこで迎えるか、看取りケアを視野に入れて考えてもらうよう話しており、利用者の状態を見ながら家族と話し合うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えについては、急変時対応マニュアルを用意しており、定期的なミーティング等の機会を利用し、職員へ緊急時の対応を認知してもらえるようにしている。不安要素があれば解決に向けて取り組んでいる。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策としては、スプリンクラーや自動通報装置設置。設備点検実施。年2回消防避難訓練を実施し、隣接するDSの職員も訓練に参加している。朝の申し送り時に消防避難訓練の読み上げを行い、緊急時に備えている。	併設のデイサービスと合同で昼間と夜間を想定した避難訓練を年2回実施し、火災等の時は応援依頼できる体制となっている。近隣住民には避難訓練実施の声かけを行っているが、日中仕事で不在にする住民が多く、参加にまでは至っていない。備蓄に関しては、グループホームで2~3日分の食材と水、法人全体では3日分の食材等を備蓄している。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、排泄の失敗があったとしても、さりげない声掛けと自然な対応を心掛けプライドを傷つけないように対応している。	雇用契約書に条文としてプライバシー保護が明記され、秘密保持については誓約書が提出されている。個人情報保護方針と利用目的が玄関入口に掲示されている。利用者に対する言葉使いが親しすぎる言葉になっている職員については、管理者から礼儀をわきまえて話すようその都度職員に伝え、誇りやプライバシーを損ねないような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望の表出や自己決定の支援について、着替え時の服など、選択決定をしていただく場面をさりげなく作っている。食事の際には、普通食やアチビーが良いのか都度、確認を行い本人の希望に添うように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のその人らしい暮らしとしては自分のペースで過ごされ、役割などへの声掛けも行っている。職員のペースでさせることのない支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれの支援については、ホームにて利用者や家族と相談し、ヘアカットや白髪染めを行ったり、お化粧やネイルなどを希望する方へは支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことのできる支援については、調理担当の職員が準備や片付けを行っているが簡単なものやひげ取り等を利用者にやってもらうこともある。食事形態は嚥下や本人の状態に合わせているがミキサー食の方にも食材や料理名を紹介しながら介助を行うようにしている。	食事については、事業所で職員が3食調理している。片付けやお盆拭き、食器拭きを利用者と一緒に行っている。食事を楽しむ工夫として、食べたい物の要望を聞き、おやつの際にはヒヤーチーやサターアタギー、焼きそば等を一緒に作り、利用者は具を混ぜる、野菜を切る等できることを行っている。職員は利用者と一緒に同じ食事を摂っていない。	利用者一人ひとりの食事の嗜好や食欲等を確認する意味でも、職員が利用者と同じ食事を摂ることが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保の支援については、落ち着いた行動により、食事が中断されてもすぐに下膳せずに、次のタイミングを見計らい再度食事を促している。さりげなく介助を行い全量摂取できるように努めている。水分補給は飲み物を変えあきない様に細目に促し摂取量を都度、記録し十分に飲水できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持については、毎食後の口腔ケアを実施。口腔内のトラブルについては訪問歯科の医師と相談している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援については、排泄チェック表を用いてひとり一人の排泄パターンを把握し、事前の声掛けをさりげなく行うなどして失敗を防いでいる。	排泄の支援については、排泄チェック表を用いて1人ひとりの排泄パターンに応じた排泄支援が行われている。日中はリハビリパンツの利用者8名、布パンツ利用者1名となっている。日中は褥瘡がある利用者にはベッド上でのパット交換を支援しているが、他の利用者はトイレでの排泄となっている。夜間のオムツ利用者は5名となっている。褥瘡がある利用者については夜間は早めの排泄介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応については、乳酸菌ドリンクやヨーグルト牛乳などを取り入れるようにしている。トイレ誘導した際には必要に応じて腹部マッサージを行っている。エスカルゴ運動も習慣とし実施している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しむことのできる支援としては基本的には一日越しの入浴であるが、その方の入浴パターンを把握し希望や必要時には対応するようにしている。入浴への拒否があった場合には無理強いせず時間を空けたり翌日に変更したり本人の意思を尊重し対応している。	入浴は1日おきの週3回を基本としている。羞恥心への対応として同性介助を行っている。入浴時間は午前中だが、失敗した時は時間を問わず入浴してもらい、柔軟に対応できる体制となっている。入浴を嫌がる利用者はいないが、「今はまだ入りたくない」と希望する利用者については、時間をおいて声かけする等、その人の希望に合わせた支援を心がけている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の支援については、個々の生活習慣や現在の状態を把握し安心して休めるよう配慮している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については、常に病院、薬局と連携している。職員一人ひとりが利用者様の病状を理解し内服薬を把握するようにしている。誤薬防止の為に投薬ケースを準備し分かり易い状態にし、内服支援後利用者様の前でも名前を読み上げるように努めている。	この1年間で誤薬が2回あり、再発防止として、与薬の際は近くの職員に薬袋を見せ、声を出して名前の確認を行うダブルチェックを徹底するとともに、与薬後は残薬がないか、空袋の中身の確認を行っている。薬の変更時は申し送り簿に記載し、考えられる影響や留意点を記載して職員間で情報を共有し、利用者の状態変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援	役割、楽しみごとの支援については、以前の死活歴を把握し可能な利用者様には一緒に掃除等を手伝ってもらっている。タオルを畳んでもらう等本人が役割として認識できるものはないか職員間でも情報交換している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援については、散歩等によりできるだけ個々の希望に沿った外出機会を設けるようにし天気の良い日にはドライブを楽しんだりしている。	グループホームとデイサービス敷地内の散歩や裏庭での日向ぼっこを日常的に取り入れ、車椅子の利用者についても玄関先で外気にあたる等、外に出る機会を設けている。新型コロナウイルス感染症の影響により、外出ができないため、敷地内散歩を極力行うように努めている。10月の涼しい日には車椅子の方2名、歩行できる方3名で海を見にドライブに出かけており、気分転換が図られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使うことの支援については現在お金を所持している方はいないが、週1回くるパンやさんを楽しみにされ職員と一緒にパンを選ばれている。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援としては希望があればすぐに対応できるように支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用空間づくりについては、風通しをよくし、閉鎖的空間を避ける為、玄関のドアはタイミングを見ながら開放している。季節ごとの創作物を掲示するなど季節感を損なわないように心掛けている。	リビングは広く、利用者がゆったり過ごせるよう1人用のソファ等が設置されている。利用者と職員がストローを使用して共同で作成した敬老の日の絵やクリスマスの装飾品など季節を感じられるよう工夫されている。また、台所にはヒヌカンを祀り、沖縄の慣わしも大事にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間における一人ひとりの居場所づくりとしてはフロアのテーブルや椅子の位置を用途により変えることで利用者様が思い思いどおりに過ごせるよう努めている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせる居室の配慮としては、利用者様が使い慣れた物や、好きな飾りもの・写真を壁に貼ったりしている。紙おむつやポータブルトイレ等は直接目に触れないようにケースに入れたり布で覆うようにしている。	居室には使い慣れた藤のダンスや若い頃使用していたキーボードピアノを置いたり、好きな歌手のカレンダーが貼られている。横になると本人の目の高さになる位置に家族写真を飾るなどして、居心地よく過ごせるように利用者一人ひとりに合った設えとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくりとしては日付や時間の分かる利用者様には居室にもカレンダーや時計を設置するようにしている。		